

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



泉佐野丘陵緑地での郷の棚田活動は今年で3年目。ハナオクラ、アマナなどの植え付けをおこなった。

Contents

- GEN 第24回総会の報告 P 2
- 夏季寄付のお願い P 2
- GEN 総会記念講演抄録 P 4～6
- 大同緑化協力25年の軌跡 P 7

2018.7
182

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク 第 24 回総会の報告

6 月 16 日、大阪市西区民センター第 4 研修室にて緑の地球ネットワーク総会が開催されました。総会に先立ち、記念講演がおこなわれました（講演要旨は P4～P6 に掲載）。

会員 409 名（団体を含む）のうち、出席数 43 名、書面またはメールによる決議への参加 132 名、委任状提出 63 名、合計 238 名で総会が成立しました。

【議事】

2017 年度事業報告・決算・監査報告とその承認、2018 年度事業報告と予算の提案とその承認、定款変更の提案とその承認、役員改選の提案とその承認

がおこなわれました。

定款の変更について、現行の定款では副代表の定員が 2 名でしたが、若干名に変更しました。これは関東方面の活動をより活発にできるよう、関東からも副代表を選出できるようにするためです。

また、第 23 条の改正は特定非営利活動促進法の改正にともなうものです。現行の会の公告は「官報により行う。」となっていました、これに「ただし、法第 23 条の 2 第 1 項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府 NPO 法人ポータルサイトに掲載して行う。」



と追加することで、従来は毎年法務局に財産目録を登記する必要があったところを、内閣府 NPO 法人ポータルサイトに掲載して行ことで足りることになります。

また、世話人の浦崎賢太郎さんが退任し、新しく岡和希さんが世話人に就任しました。

【懇親会】

総会終了後、食事とお酒を交えた懇親会をおこないました。37 名が参加しました。

付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは緑化基金、運営寄付、おまかせ寄付と会費のうち一口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくは GEN までご連絡ください。

GEN の メールアドレス 変更しました

GEN のメールアドレスを変更しました。新アドレス：gen@gen-tree.org（旧アドレス：gentree@s4.dion.jp）

登録の変更をお願いいたします。

また、引越等で住所、電話番号、メールアドレスなどの変更がある方は GEN までご一報ください。

企業（法人）からの寄付金は一般寄

夏季寄附のお願い

張家口市での活動を軌道に乗せるため

みなさまのご支援をお願いいたします

この度の豪雨で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地域の日も早い復旧をお祈りします。

被災地域へのご支援をお考えのかたも多いかと思いますが、GEN からも夏季寄付のお願いです。

張家口市蔚県での活動は 2 年目に入りましたが、木を植え育てて森林を再生する作業は長い時間が必要です。みなさまのご支援で張家口市蔚県での活動をご支援していただくようお願いいたします。

ご送金には同封の郵便振替の用紙をご利用ください。発送作業の都合上、一律に同封しますが、最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではありません。

銀行振込でご送金いただく場合は電話、メール、ファクスなどでお名前、連絡先、寄付の用途を GEN 事務所までお知らせください。

【銀行口座】

三菱 UFJ 銀行 阪急梅田北支店 普通 5284852 緑の地球ネットワーク どうぞよろしくお願いします。

【クレジット決済が可能になりました】

この度、クレジットカードで年会費・寄付の決済ができるようになりました。クレジットでの決済をご希望のかたは GEN ホームページからお願いいたします (http://gen-tree.org/join_donate/credit.html)。

【GEN の寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

GEN は大阪市に認定された認定 NPO 法人です（期限は 2019 年 4 月 8 日まで）。

個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄附金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は一般寄

郷の棚田で迎えた誕生日

高田 望（GEN 会員）

5 月 12 日、GEN 自然と親しむ会「泉佐野丘陵緑地郷の棚田活動 懐かしい作物や花などを植えて楽しむ」をおこない、11 名が参加しました。

5 / 12（土）、心地よい五月晴れ、奇しくも私の誕生日、泉佐野・日根野両駅から日祝日のみ運行されるコミュニティバスに乗って大阪府宮泉佐野丘陵緑地へ向かう。

前中先生のお話では、このあたりは関空開港時に大阪府が工業団地用地として確保したものの、現在は府立公園として計画面積約 75ha のうち中地区のみを整備しており、東・西地区はまだ利用計画策定中とのこと。もしインバウンド目当ての計画なら、どっかのコピーではなく“日本の里山のショーケース、入場者は一日〇人限定で体験主体”といったコンセプトは如何かと……。

取付道路でもめそうやな。

さて、パークセンターで現地集合のみなさんと合流し、郷の棚田エリアで GEN が管理する一枚へ移動する。雑草取りと畝起こしから始めて、ヘメロカ

リスの周辺を手入れしつつ、化成肥料・石灰を撒いてハナオクラ・ニラ・アマナ・ギボシなどの植え付けをおこなう。途中で以前植えてあったものをほじくり出してしまふ場面もあって、「また植ええたら O.K.」とばかり隠蔽工作もおこなった。本物の棚田でいちばん大変な水やりは、近くまで水道が引いてあって楽勝。作業中、あの黄土高原の、固く細かくかつ礫混じりの土とは全然ちゃうな！ と実感。公園内では、野生動物による食害防護柵設置の区画もあったから、今回植えた苗や種が喰われずに無事育ってくれることを祈りましょう。

昼食後、林のなかの小径を散策、先生から植物の名前や特徴などを熱心に伺うみなさんがいる一方で、わたしなんかはクサイチゴ採りに勤しんでいた。動物の食料



初夏の植物園巡りを満喫

澤地 實（GEN 会員）

6 月 2 日、GEN 自然と親しむ会「前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑦西宮市北山緑化植物園を歩く」をおこない、12 名が参加しました。

花木の知識は無きに等しく、したがって興味も今一だったが、会報を見て、初夏の一日、植物園を巡る山歩きも面白かり、と申し込んだ。

阪急夙川駅 10 時集合、さすが会員、花木に詳しく女性が集まった。山好きの女性は一般に草花に詳しく、男性の方は大体関心が薄い。小生は忘れる方が早かった。

西宮市北山緑化植物園入口付近は多種の花木が満載で、久しぶりの再会の嬌声があがっていた。何の花木が分からないが、前中先生の説明が続く。基礎的素養に欠け理解不十分につき、黙って皆に付いていくだけ。時に名札を覗くが、当然知らない花木ばかりだ。

だが聞き覚えのある名前を見つけた。

「エーデルワイズ」、サウンド・オブ・ミュージック。高校時代、何十年前か。しかしほのかに甘い。そして「セレッソ」、大阪のプロサッカーチーム名。スペイン語で桜、程度は知っている。

整備の行き届いた植物園を十分堪能した後、池のほとりで昼食、尾根道を北山野水池に向かい、甲山山麓の森林公園へ。入り口で皆と別れた。

その後のある日曜日、嫁さんと奈良公園に行った。当初高円山に登る予定だったが途中で変更、春日参道脇の万葉植物園へと方向転換した。参道は国際色豊かな観光客で大賑わいだが、植物園はひっそ

りしている。

まずはマボロシの万葉植物ムラサキ。小さな白い花、根が高貴な紫色の原料という。現在の自然界では滅多に出会えない希少植物とのこと。進むと「臥竜のイチイガシ」というのがあった。大風で一旦倒れた桎が、はうように成長してのた打ち回る竜のような独特の雰囲気醸し出している。成程、たまの植物園で勝手に楽しむのも悪くない。



GEN 総会記念講演要旨

日本林業と持続可能な木材消費

速水 亨さん（速水林業代表）

第 24 回総会に先立ち、記念講演をおこないました。今回は速水林業代表の速水亨さんをお招きし、日本や世界の林業の状況や FSC 認証、速水林業の取り組みなどについてお話いただきました。（文責＝編集部）

1. 国内林業の状況

現在の日本の森林は、江戸時代と比べると蓄積が増して緑のカバー率も高く、充実してきました。とくに人間生活に近いところが緑化されているのが画期的です。1966 年から 2012 年までで総蓄積は 2.6 倍、人工林で 5.5 倍になっています。造成過程では約 25 兆円の資金と約 10 億人の労働力が投入されました。もう一度適切な労働投入をおこなって経済的価値を高める必要がありますが、世間では森林の価値があまり評価されないので厳しい状況です。

日本の林業の一番の問題は若い山が少ないことです。人も木も若い時に成長が著しいので、若い山を成長させ樹齢の高い木を伐るのが林業のサステナビリティの基本ですが、若い木の成長量が確保できていません。昭和 40 年代中頃までは全国で 30 万 ha ほど植え

れましたが、現在は 2 万数千 ha に減少しています。木が売れない状態が続くともっと困難になるでしょう。

国民の森林に対する期待度の変遷を見ると上位は一貫して災害防止効果で、木材生産は 1947 年には 2 位でしたが 2003 年は 9 位（ビリ）に落ちています。

2000 年以前は為替が変動するとその 3 か月後に木材価格も変化しましたが、その後は国産材が市場経済を無視した動きを取るようになりました。為替は横ばいなのに国産材の自給率は上がり、木材消費全体は大きく落ちていながら国産材の比率は上がっている。国民の森林に対する期待が木材生産ではなくなったことを政府が敏感に感じ取って、2001 年の森林法改正で森林の最大の目標を木材生産でなく多面的機能の発揮にしたからです。1997 年に COP3 で京都議定書が採択され、日本は温暖化ガスを 1990 年度比で 6%削減しなければいけなくなり、そのうちの 3.8 ポイントを森林吸収により確保することにしました。その森林は 90 年以降に手入れをしたものですが、林野庁は「手入れ」を「間伐」と読みかえ、間伐によって

国産材の需要供給を増やそうと多額の予算を確保しました。それで木材需要は減っているのに国産材が増えて価格が下がり、ただでも木材が動かない時期がありました。それをきっかけに需要拡大をしようと大型製材工場に補助金を入れましたが、残念ながら木材の立木価格は落ち続けています。

1989 年に日本林業に機械化の動きがでて、私はヨーロッパからタワーヤーダーを購入しました。高性能林業機械は当時全国で 76 台でしたが、2015 年には 7,680 台に増えています。機械が 100 倍になれば生産性が上がるはずですが日本ではせいぜい 2 倍弱しか上がっていません。補助金で森林組合が導入したものの稼働率が悪いのか、機械の選択を間違っているためです。その結果、木材の末端価格が低くなります。スギの末端価格は全国平均で 12,200 円ですが、流通コスト、運材費、市場手数料が含まれ、山元に残るのは 3,580 円。和歌山は機械化が進んでおらず 1,060 円。よく比較されるオーストリアは立木価格 14,000 円のうち山元に残るのが 9,530 円ですから比較になりません。スギでは 1980 年には板や柱が 10,000 円で売れたら山には 2,000 ～ 3,000 円入りましたが、現在はたった 400 円です。

1957 年、木材価格が 1m³5,500 円ほどで、11 ～ 12 人を雇えました。それが 1980 年に人件費の高騰で木材価格が一気に上がった。このとき林業経営者が何をしたかによってあとあと左右されることになります。このときに林道整備、人材育成をしていたらまだよかったんですが、むやみに林地を拡げた人は後になって苦しむことになります。結局 1m³あたりの立木価格で 0.2 人しか雇えない。山の価値が 60 分の 1 まで下がってしまった。結果、100ha 以上の森林をもっている人たちはみな赤字に陥っています。林野庁はこの状態を理解していながら集約化、共同化をしろと言っていますが、今のままでは絶対に利益は出ないんです。それを考えていないのが大問題です。

日本の大規模森林所有者は戦後このかたみんな赤字経営で、黒字を出そうという意欲がまったくない。巨大な国有林でも誰も利益を出そうと考えてい



てっており、すでに 300 棟作りました。CO₂ 削減の意味もありますが、工期が 10 日間短縮されて経済的なメリットもあります。

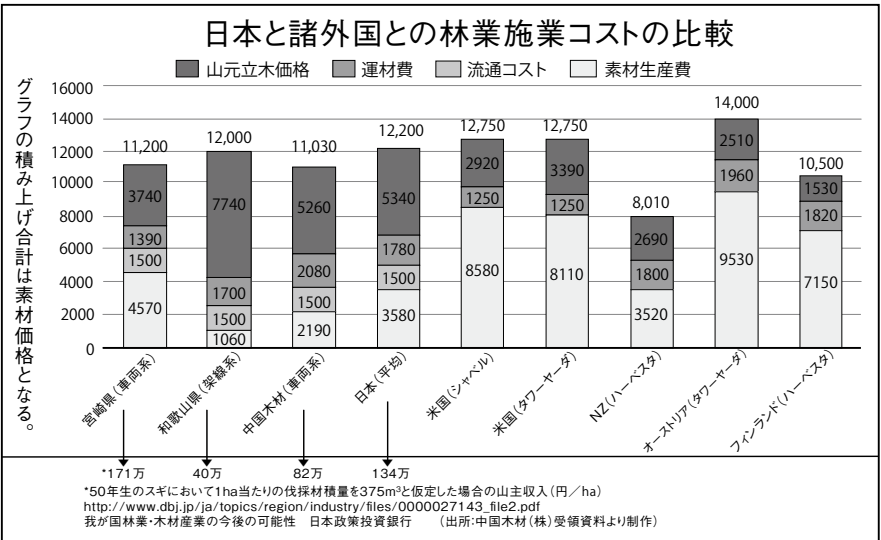
他の素材を木材に変える大切さ、使うべきでない木材の消費は他人を不幸にすることを理解することが大事で、日本の社会生活は他国の生物多様性を犠牲にして成り立っています。

世界中さまざまなところで認証材が使われています。例えば慶応大学三田キャンパスのビジターセンターは南三陸町の認証材で作りました。また GAP、ベルサーチ、ティファニーなどの包装紙、オバマ大統領の就任パーティーの招待状なども認証紙が使われています。名古屋 COP10 の空間構成年木材、2017 年の伊勢志摩サミットの椅子と机も認証材です。

3. 新しい林業の動き

日本でスギが 50 年生になるまでに 1ha あたり 231 万円かかりますが、30 年生までに 80%の 208 万円を使います。30 年生で比較すると、アメリカは 14 ～ 25 万円、ニュージーランドは 40 万円で日本の 5 分の 1 でやっています。このあたりを目標にして 40 年近く前に速水林業がやっていたことを表にしてみると、30 年生までに 413 人工を投入し、400 万円を投入していました。当時は立木のままでも 1ha あたり 1,500 万円ほどでしたが、いまは 300 万円、これじゃだめだと人をほかに回して、いまは 94 人でやっています。枝打ちをやるための人数が多く、それを除くと 1,500 本植えて約 26 人でできる計算になります。そうすると 65 万円に補助金が適応されたら 4 ～ 3 割の負担なので 18 ～ 26 万円くらいでやっていける計算になります。日本の林業もばかにしたものじゃない、ちゃんとやればこのくらいでできると私は思っています。

これからは森林を資産ととらえて資産を増やすために何ができるのか考える。作業の結果、将来の森林の姿をしっかりと予測する。投資に耐えうる説明責



ません。日本の林業政策に大きな影響を及ぼす大規模森林所有者が赤字体質を当然視していて、そのなかで政策が行われている。そこに学者も異論を出さないのも問題です。

この 5 月に新しい森林管理経営法が国会を通過したのですが、森林の経営管理権というのを新しく作って、小さな森林所有者から意欲のある林業経営者に委託して使わせることとし、意欲のある林業家を育成し、木材需要の拡大をはかろうというものです。所有者が森林管理に関心を失い、森林が伐採可能な樹齢になり、伐採後植えられない森林が増加して若年林分が増えず、絶対的な木材需要が減少している、林野庁はこんな問題意識を持っています。

2. 木を使うこと

世界の木材生産量は年間約 30 億 m³で、そのうち 12 億が薪炭利用です。残りは産業用の丸太。貿易量はたった 1 億 4000 万 m³ にすぎません。1990 年以降に森林を増やしているのは中国で、減らしているのは東南アジアです。インドネシア、マレーシアあたりに中国が木を伐りに入って日本に売りつける。国内では森を増やして外で切っている。これどこかで聞いたことありませんか？ 40 年前の日本がしていたことです。

木材消費は確かに大事ですが、違法な伐採は森林破壊の大きな原因で、生態的な問題があり、森に依存して生活している人の人権の問題があります。森に依存して生活している人は、森を失うと子どもたちが学ぶ機会を失い、貧困の負の連鎖で子どもたちが売春へ

予想される最低保育経費の試算(枝打ち無し)						
林例	作業区分	人数	単価	経費	割合	
1	地植え	0	0	0	240,000	36.9%
	苗木代	1,500本	100	150,000		
	植え付け	5	18,000	90,000		
2	下刈1回	8	20,000	160,000	320,000	49.2%
3	下刈1回	8	20,000	160,000		
21	除伐	5	18,000	90,000	90,000	13.8%
計		26		650,000	650,000	
◆シカの食害が無い場合 ◆苗木は精英樹の挿し木苗。 ◆単価は福利厚生費等の間接経費を含む。						
✓1,500本は偶然だがドイツで推奨されている植栽本数 ✓補助金を入れて考えると自己負担18万〜26万円程度						

任を備えた管理をめざす、外部に対しても社会性の説明が必要で、ステークホルダーへの説明責任と意見の聴取をちゃんとやっていこうというのが新しい林業の動きです。

4. 常に前を向いた速水林業

最後に速水林業の話です。三重県の尾鷲にあり、ここは独特の地形をしていて、南西に開いて海に面しています。後ろに山系があり暖かい風が海側から山間部に当たって雨を降らせます。冬の北風は山の裏にぶつかり、海岸側には乾燥した風がふきます。うちは江戸時代から林業をやっていますが、地

を届け、地表に下草や広葉樹を繁茂させて生物多様性を確保します。環境配慮をしっかりとった人工林の植物の種類は243種類、広葉樹の保護林だと186種です。

生産性に関してはウィーンから教授を呼んで道の付け方を習い、その道に応じて機械化していきました。機械、重機は海外から購入し、メンテナンスは自分でやることでうまく動かしています。今は下刈をいかに減らすか、枝打ちをどうするか、造林の合理化のためにどういう苗を作るかの3点に注目しています。

元の製材工場と連携をとりながらヒノキを商品にして1,070haの森林管理をしています。地元住民に理解してもらえる経営で、環境的に豊かで美しい森林を作っていく。現場の作業員がしっかり意見を言える現場管理をしています。

私の森林管理の基本は日陰の管理です。日陰管理をしっかりとって地面まで光

造林の合理化のためにバイオボットを使って挿し木で15〜20万本ほど生産できます。国がやっているコンテナ苗の3分の1のコストです。

人を大事にしています。イオン社長の岡田元也氏が「成功体験を捨てなさい」と言っていますが、私も従業員にはこれまでの良かったことは忘れて新しいことをやろうと言っています。ともかく従業員に議論させる。私も議論することを大事にしています。

聖徳太子の「和を以て貴しとなす」が日本人は好きなんです、違うんじゃないかと私は思います。孔子の「子曰く、君子は和して同ぜず小人は同じて和せず」。これだろうと、和とは違うんです。協調性は大事だけど自分の意見を言えないとだめです。従業員には孤立を恐れず独創的な意見を言え、相手のレベルを超越するくらい努力しろ、常に批判の姿勢をもって自分の意見を言えと言っています。そして森林は命の塊なんだから、100年、200年先の未来の森林を自分の頭の中で育てて、そこからバックキャストして今の作業をしようと、よく話しています。

う興味深い体験がありました。数種類のドローンを飛ばして上空から鳥瞰したり、また階段状の植栽場所で奮闘する皆さんを横からビデオ撮影しました。上空に直線的に上昇するドローンに、トンビが上昇気流に関する自己の感覚とのギャップに悩みながら飛んでいたのが面白い。植栽地の鳥瞰が加わり今後の展開が楽しみです。



西伊豆町でドローン空撮体験

大野 健二 (GEN会員)

5月11日〜13日、GEN 関東ランチ西伊豆5月合宿をおこないました。6名が参加しました。

5月11日〜13日にかけて、西伊豆町宇久須にて6名の参加を得て、2泊3日の春合宿がおこなわれました。手短かに報告します。
DAY1 5/11(金) 午後合宿所に集合。あめみや農園にて作柄観察。夕刻は魚介BBQで結団式。
DAY2 5/12(土) 車数台で凸凹山道を登って標高450mの芝山採石跡地に入り、採石地縁辺でシキミの実生苗を採取。これと宿舎の庭でポット養生した苗を合わせた120株をむき出しの採石跡地に炭をすき込み植林・灌水。
DAY3 5/13(日) 午前中に関東ランチ圃場にて、海老芋(サトイモ)の定植とサツマイモ栽培予定地のマルチがけを完了。秋の大収穫を期待しつつ昼前に解散。

酸性度の強い土壌というよりも土石にシカの食害を受け難い「シキミ」や「アセビ」を植えこんだわけですが、3年前に同様に植えられた苗の4割くらいがいまだ小さい株のままであるもののその岩場に根付いており、また本体が枯れてもその生えていたであろう場所の15cm四方に幾種類かの小さな植物がへばり付くように生えていて、植物が植生を変化させていることが見てとれました。しかしそのあゆみは非常にゆっくりしたものようで、植生の回復を考えると気が遠くなるような思いがしました。

今回の活動にはまた西伊豆町の「地域作り協力隊」の方が業務用ドローンで空撮してくださいと



大同緑化協力 25 年の軌跡

最初の協力拠点・環境林センター

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で9回目です。(高見邦雄)



南郊区平旺村の環境林センター

緑色地球ネットワークの初代所長になる祁学峰さんが「防護林や小学校付属果樹園があちこちに散在しているが管理ができない。それらを統合し牽引する拠点が必要だ」と言い出したのは1994年春のこと。

緑の地球ネットワークの活動に参加された専門家の立花吉茂先生は、植物園建設に情熱を燃やす一方、苗圃や研究施設の必要性も指摘されていました。日中双方からほぼ同時にでた構想は一つのこととして実現できます。1994年8月、最初の専門家調査団の課題の一つが、場所を定め、大枠の方向を決めることでした。

日本にきた連絡では候補地は大同県でしたが、案内されたのは南郊区平旺郷平旺村の果樹園でした。リングナシ(見かけはリングドで実体はナシ)が栽培されていましたが、管理が行き届かず、雑草が繁っていました。

苗づくりが重要な任務になりますが、植林の現場は土がやせ水もたっぷり。ここで育てた苗を現場に移すとショック死しないか私は心配でした。

前中久行先生が、「欠ける条件を補うのはたいへんだけど、なにかを外していくのは簡単だ」と回答を示されました。欠水に苗を慣らしたいなら、事前に水を断てばいいというのです。

1995年4月、日本からの協力団も参加して、最初の協力拠点、環境林センターの起工式が開催されました。この年1月の阪神大震災で緑の地球ネットワークは深刻な打撃を受けましたが、

それにめげず4月に2つのツアーを派遣したのです。

3.5haという小規模のスタートで、トラクターは運転手・燃料付きで村に協力してもらい、電気も水もメーターなし、管理棟や温室は資金の調達を待つて少しずつ建てました。責任者の邢雁俐さん(女性)の、地元との関係が良好だったからできたことです。

その秘密は1998年4月に明らかになりました。共産党山西省委員会の組織部長、支樹平さんがここを訪れたのです。党書記や市長、副市長など大同市の幹部が同行しました。

帰りぎわに支樹平さんが「ここは私の生まれ故郷です」とあかしたのです。ピンときて私は「じゃあ、あなたが!」。支樹平さんは「一つくらいは故郷にいいことをしたかった」と応えました。大同県から平旺郷に移った理由がそれなのです。

邢雁俐さんはそれまで青年旅行社の副社長をしており、彼女の姉が支樹平夫人でした。

支樹平さんは「いいことをしたかった」と言いましたが、その段階ではいいことになるかどうか、なんの保障もありませんでした。買いかぶってくれたものです。

支樹平さんはその後、党の山西省委員会副書記、河南省委員会副書記をへて、国家質量監督検閲防疫総局の局長(大臣)になり、党の中央委員でもあります。中央に行ってから、私たちの協力事業を気かけ、ある局面では決定的な助けになってくれました。



大同のスタッフ



環境林センターの敷地はりっぱな公園に

詳しい経緯は省きますが、2000年になってもとの果樹園の全体、約20haを私たちが借り、苗圃を拡張せざるをえなくなりました。私は不安だったのですが、スタッフたちは「この規模があれば自立できる」といって張り切ったのです。実際にすばらしい勢いで発展し、優良な苗をたくさん出荷しました。

2010年になって大同市の植物園計画が浮上し、ここに白羽の矢が立ちました。市長は大同県に代替地を無償で提供してくれましたが、私は内心、くやしくてしかたがありませんでした。

何年かたって、りっぱに生まれ変わったという噂を耳にし、行ってみました。隣接していた畝区の苗圃、城区の園林地とあわせて67haと以前の3倍以上の面積にりっぱな公園ができあがって、市民の憩いの場となり、私たちの苗木も大きく育っています。政府は5年で1.6億円も投じたそうで、私たちの25年間の総額5千万元強と比べて圧倒的な額です。理想的な結末だったと言っているでしょう。



総会にお寄せいただいたメッセージの一部をご紹介します。

○事業報告を読ませていただき、必ずしも上向きとはいえない状況で前向きに粘り強くネットワークの道を拓いている様子がよくわかりました。(SK)
○支援や援助から、ともに地球と植物と人の生き方を考え実践してゆく関わりにより近づいていけばいいですね。(MR)

情報ひろば いっしょなかたち

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

自然環境市民大学 1日体験

自然環境市民大学の1日体験です。

- 参加費：300円（資料代・保険料含む）
- 先着若干名。1人2回まで受講可能
- 問合せ・申込み：公益財団法人
大阪自然環境保全協会市民大学係
（〒530-0041 大阪市北区天神橋
1-9-13 ハイム天神橋202号室 tel.
06-6242-8720 fax . 06-6881-8103
e-mail : shimin@nature.or.jp URL
http://www.nature.or.jp）
- 対象講座：8月8日（水）「ツバメ
の塹入り」京橋観月橋駅／8月22日
（水）「信太山丘陵の保全」信太山
／9月15日（土）「野生動物との
共存」奈良公園／10月17日（水）
「金剛山の環境と植生」金剛山／10
月24日（水）「昆虫の生態と生息環
境」淀川／11月14日（水）「秋の
植物観察ードングリを中心に」泉北・

光明池／11月21日（水）「きのこ・
菌類の分類と役割」近畿大学農学部
／12月5日（水）「淀川の自然環境
復元」淀川左岸樟葉～枚方へ／12月
15日（土）「渡り鳥飛来地の復元」
南港野鳥園／1月16日（水）「里山
を知るー現状と保全の方法」富田林・
奥の谷／1月23日（水）「里山の哺
乳類と生息環境」妙見青貝山

（7ページから続く）

○総会資料をしみじみ読みました。以前と違って、中国側からも費用が出ているんですね。それから若い世代にツアー参加費用の助成をしようということ、賛成です。日本の高齢化と経済力の劣化は避けられないと思います。一方、お隣である中国の人々とのつながりと、緑化を続けていくことは守っていききたい。今までと同じ形で続けていくことは難しいのですね。エラそうなことを書いてしまいました。みなさんと、また、お会いできる日を楽しみにしています。（S.K）

○昨年母になり、子育てと仕事に奔走しています。子どもが生まれて、環境を守るといことは、この子が生きていく世界を守っていくことなんだと改めて思うようになりました。みなさんの活動を広島から応援しています。

（O.A）

○大同での事業がスムーズに地元へ移譲できたようで本当によかったです。大同事務所の皆さんの職も失われずに済んだとこのことで安心しました。ここ

までに大変なご尽力があったことと思います。また張家口市でのプロジェクトも村での植林をはじめ、樹木見本園の建設協力等、次々と事業が立ち上がっていることを知り、そのスピードと実行力に改めて感嘆致しました。（A.N）

○日中平和友好条約締結40周年記念・李克強総理歓迎レセプションで李克強総理と握手できたことは、これまで続けてきたプロジェクトの一つの大きな成果で、とても意義深いことだと思います。張家口の新しい協力地にも行ければ良いと思っています。（M.A）
○本当に長い間続けてきた成果が毎年感じられすごいなあと感動しています。今は地域活動だけで手いっぱいですが、いつか老後の楽しみで中国へ木を植えるに行けたら…と願っています。

（S.J）

○緑の地球ネットワークが、大自然に対して真摯に向き合ってきた結果、今日の高い評価につながっているのだと思います。私自身、大同を訪れてからすでに20年近く経過しておりますが、これからも活動に関心を持ち続け、この価値観を共有できる若い仲間をさらに増やすことができるよう、私なりに協力させていただきたいと思っています。（M.E）

○臨時の寄付収入や李克強総理との握手など、今後の活動につながりそうですね。うれしい限りです。新たな土地での活動が引き続き日中間の交流の大きな礎になることを祈念しております。

（S.N）